

みんなの童話

ふうちゃんのお月さま



「ふうちゃん、ついたわよ」

ママのこえで、目がさめました。

ふうちゃん、目のまえに、たかいマンションがみえました。1、

2、3・・・もうなんかいだてかわかりません。パパが、

「七かいの707ごうしつ、ラッキーナンバーだぞ。ふうちゃん、

とおいところまでひっこし、ごめんな」と、いいました。

ちよつとおどけて、ふうちゃん

をよるこぼそうとするパパの目になみだが見えました。

ひっこしやさんが、にもつをは

こんでくれ、やつとおちついて、

へやをみました。まどからとおくのけしきがみえました。すてきな

ビル、かんらんしゃもみえます。

ふうちゃんは、すこしうれしくな

りました。

「ふうちゃんのおへや、どこがい

い？」

ママがききました。

「わたし、ここ。まどからおそと

がよくみえるもん」

「そつだね。ここがいい。お日さ

まもいっぱいはいるよ」

パパが、リビングのとなりのお

へやに、ふうちゃんのだいじなぬ

いぐるみやおもちゃをはこんでく

れました。

その日のゆうしよくは、お店で

たべました。スーパーやレストラ

ンなどもちかくです。まちぜんた

いが、きれいです。人もたくさん

います。ふうちゃんは、みるもの

ぜーんぶビックリです。

すこしずつこの町になれなくちゃ

・・・と、おもいました。

パパとママは、その日のよるお

そくまで、おへやのかたづけです。

ふうちゃんは、ひとりでベッド

にはいりました。

「ママ！ でんきつけといて」

「そうね。ママたち、となりにい

るからだいじょうぶよ」

ママが、そつとこえをかけてく

れました。

ふうちゃんは、なかなかねむれ

ません。ひとりになると、また、

しんばいなのがふくらんで、か

なくくなりました。

まどのほうをみました。すると、

まあい大きなお月さまがみえる

ではありませんか。

「わあー！ お月さまきてくれた

の？ふうちゃんのところきてく

れたの？ うれしい。ありがと」

ふうちゃんは、げんきがまし

た。そして、お月さまをみながら

ねむっていききました。

しろやま会員 ふじい のぶこ

とつぜんでした。パパが、てんきになり、ふうちゃんは、おひっこしすることになったのです。半年たって、やつとなれたようちえん。ともだちのまいちゃん、ちかちゃん、ともくんともおわかれです。

ふうちゃんは、いますんでいる海べのいなかからはなれるのも、とてもかなしいのです。ふうちゃんは、あたらしいことになれるのががてです。つきからつきに、しんばいながててきました。

ふうちゃん、ついでに、おひっこしの日がやってきました。パパもママも、ほんとうはさみしいのです。ふうちゃんのこともしんばいなんです。「さつ、いくか！」

ふうちゃんは、あたらしいことになれるのががてです。つきからつきに、しんばいながててきました。